

# 会 議 記 録

令和4年11月9日

●会議名 令和4年度 第3回丹波市社会教育委員の会議

●日 時 令和4年10月28日（金）9：30～11：45

●場 所 氷上住民センター 大会議室

●内 容

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 令和5年度社会教育事業について

・各担当課長より説明

## 【質問・意見】

- |           |   |
|-----------|---|
| 委員        | 令和5年度丹波市の教育（実施計画）は前年度と大きく変わっていますか。  |
| 次長兼教育総務課長 | 現在事務局で策定中です。本日説明した事業も含めて重点施策を検討しています。   |
| 委員        | 本日事業の目的を説明していただきましたが、順序が違うように思います。  |
| 委員        | Ⅱ（1）家庭教育の充実についてですが、家庭教育に関する事業は土日に開催されることがあると思います。土曜日が勤務の企業もあるので、企業とも連携して参加者が集まりやすい環境づくりをお願いします。 |
| 委員        | 事業を計画しても参加が困難な日程や時間帯はあると思うので、できるだけ参加しやすい日程調整等配慮をお願いします。   |
| 委員        | 市内各自治会に対して事業実施の情報を発信していますか。   |

社会教育・文化財課長	<p>各自治会に向けての事業実施に関する情報は出せていません。</p> <p>P T C A 実践活動や地域から考える学びの未来会議、地域学校協働活動等については、積極的に情報発信していきたいと考えます。</p>
委員	<p>地域学校協働活動は地域がベースになる事業だと思います。地域づくり担当課と連携して進めてはどうでしょうか。</p>
社会教育・文化財課長	<p>現時点では十分ではありませんが、今後は市民プラザで開催されている連続講座や、まちづくり部とも連携していきたいと思います。</p>
委員	<p>中学校の部活動の地域移行について、丹波市では社会教育で対応できるか不安に感じます。準備状況等はいかがですか。</p>
次長兼学校教育課長	<p>令和4年度から検討委員会を立ち上げています。</p> <p>部活動の受け皿や指導者の人材確保、教員の働き方改革等課題が山積していますが、市長部局とも連携して進めたいと考えます。今年度中に保護者向け、地域向けのチラシを配布する予定です。</p> <p>令和5年度から令和7年度にかけて順次移行するとなっているので、本市においても徐々に進めていきます。</p>
委員	<p>Ⅱ（3）学びの成果を活かせる社会教育の部分についてです。知識循環型の社会教育につながる施策になっているかどうかを見ています。それには地域づくり大学が果たす役割は重要だと思っており、数年間委託事業として進められていましたが、令和4年度からは委託での事業実施が無くなりました。</p> <p>このことについては、ある一定の成果があったから委託が無くなったのか、事業を実施しなくなった原因があったのか教えてください。</p> <p>また、知識循環型の生涯学習を推進するにあたって、地域づくりを担う人づくりの事業は必要なことだと思いますが、担当部署の考えをお聞かせください。</p>
市民活動課長	<p>令和5年度も地域づくり大学の実施は予定していません。</p> <p>当初は自治協議会を中心に地域での学びを進めようと</p>

取り組みましたが、年々参加者数が少なくなってきました。そのような状況の中、令和元年度に市民活動支援センターを開設し、その中の委託事業として、地域づくり大学ではないのですが、地域の皆さんの力を高めるための講座を実施していただく内容の委託契約を締結しました。

その委託した部分と地域づくり大学は別事業として実施してきましたが、受託者が市民活動支援センターを運営していただいている、今のNPO法人丹波ひとまち支援機構（たんえん）が地域づくり大学も受託されたので、地域づくりに関する講座を市民活動支援センターの委託事業と、地域づくり大学の受託者としても両方で進めていかなければならなくなっていることについて、NPO法人丹波ひとまち支援機構と話しをしました。

内容は同じような部分もあるので、地域づくり大学に関しては終了させていただいて、市民活動支援センターの委託事業の中、今で言う指定管理の仕様の中にも地域づくりに関する講座を実施していただくこととなっていますので、そちらで実施していただいております。地域づくり大学は終了するという経過です。

委員

当初NPO法人ギフトが実施していた講座は、NPO法人丹波ひとまち支援機構が実施していた講座とは違った意味合いがあったのかと感じています。地域づくり講座として「ちいきの豆ちから」等を展開することで、多種多様な講座事業を展開することによって、地域づくりを担う人づくりの講座を事業展開してほしいと思います。

このような講座に必要な予算もしっかり確保していただきたいと思います。

予算については、これまでとこれから、どのように変化していくのか、その変化を教えてください。

市民活動課長

先般の丹波市まなびの里づくり協議会でも同様の質問がありました。このことについては、どの部分までが社会教育事業であるか、検証が必要だと思っています。

市では様々な部署が事業実施しており、悩ましいと感じています。

予算額については、市民活動課が所管する範囲だけに限ると、ほぼ横ばいです。その中で、親子で学ぶ講座に関する予算額は増額しており、地域づくり大学に関する予算額は減額していますが、全体としてはほぼ横ばいで

す。

委員

丹波市における高齢者教育は、そろそろ大きく見直す時期になっているのではないかと感じています。どの範囲の方を対象に何をしてもらおうのかという話です。

シニアカレッジのこともありますが、福祉分野との連携を協議する場も必要ではないでしょうか。

市民活動課長

高齢者学級やシニアカレッジのあり方については課題であると捉えています。課題改善に着手できていない状況です。

地域における社会教育の推進について今後2年間かけて取り組む予定で、その次に高齢者に対する社会教育のあり方について見直しが必要だと思っておりますが、なかなか同時に進めていけない状況があります。

また、兵庫県が実施している丹波OB大学とシニアカレッジについて、すみ分けや役割分担、あるいはどのように連携していけばいいのかということを一つの研究テーマとして考えていきたいと申し上げたこともありますが、重なっている部分も多くあります。

シニアカレッジは、コロナ禍までは年間約30回単発の講座を実施していましたが、ここ2年間はコロナ禍のため中止しています。受講者数は300人以上あり、毎回200人程度の方に参加いただいている人気の講座です。ただ、学びの成果を活かしているかどうかは、疑問に感じる部分もあります。

一方では、高齢者が身支度をして家から外出すること自体が周囲の方や友だちとつながり、社会教育になっていると言われる方もありますが、地域づくりに活かされる学習活動かと問われれば難しい部分もあります。

昨年度からテーマを設けて、学んだことを地域に活かすことができるよう、深掘した講座を実施したところ、受講者数が一桁に減少し、この内容は望まれていないと感じました。

行政側から一定の集団に対し、社会教育の視点で必要課題や地域課題の解決をめざした講座を実施しても、参加する方は社会教育を受けに行くんだとは認識されておらず、自分が学びたいから学ぶのであり、友達とつながりたいから参加されるのであって、参加される側は生涯学習だと思っておられますが、提供する側は社会教育であると捉えています。ある一定の年齢層にそこまで求めないといけないのかと考えています。

また、中央で講座を実施しても地域で活躍してもらうには距離があって、その出口の設定が難しいと感じています。昔の公民館のように地域の中で人の顔が見えて、活動する場所が見えて、この人にこのような人材になって欲しいから講座を実施して、ここで活躍して欲しいということは地域の中でならばできるという思いがあります。そのためには自治協議会との話し合いを進めていきたいというところです。

高齢者の学びのあり方は、自治協議会と一緒に考えていかなければならないと認識しています。

委員

人権学習支援者制度は有効に活用されていますか。

人権啓発センター  
一所长

コロナ禍ではあまり支援者の派遣依頼はありませんでした。令和4年度は自治会に支援者の派遣を依頼してくださいと呼びかけたところ、5～6件の依頼がありました。

今後も自治会の希望に添えるよう、学習会のバックアップをしていきます。

委員

地域人権教育事業の実施率を教えてください。

人権啓発センター  
一所长

7中学校全てで実施しています。

フィールドワークや講師を招いたり、文化祭で発表する学校等があり、取り組み内容は異なります。

委員

子どもや自動車を運転できない方にとっては、図書館へ行かなくても本を借りることができるので、電子図書館の取り組みは素晴らしいと思います。

小学生の自由研究に関し、学校の図書室には無い書籍が中央図書館にはある場合があります。学校の図書室と市の図書館がつながっていれば学校の図書室で図書館の書籍を借りることもできるのではないのでしょうか。

他市では、ショッピングセンターの中に図書館が入っている事例もあります。予算のこともあるので難しいかもしれませんが、学校と連携することで、暮らしにとけこむ図書館になると思います。

また、地域の方に講師になっていただき講座を開くこともあるのですが、「講師になってもらう人材がない」と言われることがあります。

古文書講座の講師になっていただくことができる方は地域にいらっしゃるのですが、そのことを市は調査をし

	<p>て把握されていますか。</p> <p>地域で講座を開催するには、講師に関して地道な調査をすることが前提になると思います。</p>
<p>社会教育・文化財課長</p>	<p>学校と図書館との連携については、団体貸出制度を活用していただき、学校からの要望があれば図書館の司書が選書して貸出しています。学校だけでなく自治協議会もこの制度を活用していただくことができるので、周知を徹底し図書館の活性化につなげたいと思います。</p> <p>古文書に関する指導者については、市民アンケートの活用等が考えられます。</p> <p>また、地域の教育を考える学びの未来会議で取り組んでいる学びのマップづくりでは、指導者に関する情報も収集しており、ワークショップの開催を通じて様々な指導者の発掘にも取り組みます。</p>
<p>委員</p>	<p>少年少女スポーツ活動について、指導者によるハラスメント防止や、指導者へのアンガーマネジメント研修等、子どもを守る対応はどのようにされていますか。</p>
<p>文化・スポーツ課長</p>	<p>ハラスメント防止の指導者への研修について、個々に指導者資格を取得されている方は、種目別に学ばれていると思います。</p> <p>現在のところ丹波市スポーツ協会ではアンガーマネジメントに関する研修は実施していないので、今後研修の実施に向けて検討していきます。</p>

- (2) 丹波市立文化ホール事業推進会議委員の選出について  
 ・梅谷委員を選出（任期：令和4年11月1日～令和6年10月31日）

- (3) 第2回丹波市社会教育委員の会議でのグループワークの振り返りについて

**【質問・意見】**

<p>委員</p>	<p>NPO法人丹波ひとまち支援機構主催の「学校を核とした地域づくり講座」で鳥取県南部町の福田教育長を講師にお招きし、地域学校協働活動に関する講座が先般開催されました。その講座を受講された委員から、ご意見や感想をいただきたいと思います。</p>
-----------	--

- 委員 南部町では中高生を巻き込んだ地域学校協働活動を展開され、青年団活動も復活しています。そして社会教育委員の活動が活発なまちだと感じました。
- また、今回の講座で地域社会の中に学校があることを学びました。今後も社会教育委員として積極的に活動していきたいと思います。
- 委員 講座を受講して印象に残っているのは、南部町の社会教育委員の皆さんがお揃いの服を着てガッツポーズをして写真に写っているスライドです。表情がいきいきしており、皆さんがご活躍されていると感じました。
- 社会教育委員の活動では、「何々したい」、「何々させたい」という考え方から、自ら「何々する」と考えることが重要だと思います。
- また、人材育成の連続性については、就学前から小・中学校まで連続した学習機会があり、若者が地域に愛着や誇りを持ってもらい、未来を切り開く人材を育成する講座を実施されています。さらには、高校生サークルが青年団につながり、成人式の開催に携わっておられます。
- このように連続して地域に関わる仕組みが素晴らしいと感じました。
- 委員 学校に関わっていらっしゃる方とそうでない方とは、学校との距離感は違うと思います。そこで、地域学校協働活動に関わっていらっしゃる委員から、取り組まれている事例をご紹介いただければと思います。
- 委員 自分自身が学校へ行って関わると、学ぶことがあります。まずは皆さんも学校へ行って欲しいと思います。
- 青垣地域では、小学校の統合により、小学校が無くなった地区の喪失感は大きく、学校との距離感が遠くなっているのではないかと思います。小学校が無くなった地区の方も含め、オープンスクール等まずは学校へ行くことです。それに尽きると思います。
- 委員 南小学校の地域学校協働活動推進員と、南小学校と氷上中学校の学校運営協議会の委員として学校と関わっています。
- 地域学校協働活動推進員という立場で自分が何をしなければいけないのかと考えた時に、「人々が関わる余地を作ること」が私の仕事だと思っています。
- 地域と学校の関係性や支援体制は、見守り活動や平成

丹波塾の開催等がありましたが、コロナ禍で学校・家庭・地域の関係性が寸断される局面を肌で感じることもあり、P T A活動においても制限を受ける場面があり、子どもの保護者であるP T A会員ができない活動をなぜ地域だけで担わなければならないのかという意見もありました。

これからの社会をつくる点においては、人々が関わり合いながら生きていかないと社会は成り立たないということが根本にあって、関わり合う場をどのように作るのか、関わり合う人をどのようにつなげるのかという、人々が関わる余地を作ることが重要だと思います。

先日学校の中庭の菜園でサツマイモを掘り、焼き芋をする行事がありました。その際、菜園の土が固くなっていたので、土壌改良の必要性を感じたのですが、先生にお願いするだけでは学校の負担が増すことになるので、保護者や地域の方に手助けをお願いしました。このような取り組みが、保護者が学校のサポートに入ることができる余地を作ることではないでしょうか。

委員

本日「地域学校協働活動における大人の学びについて」のワークシートをお配りしています。

このワークシートを委員の皆様にご記入していただく前に、ご質問があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

皮切りに私から、学校運営協議会の会長には、自治協議会会長が就任されていることが多いと思いますが、このことについてはいかがでしょうか。

委員

青垣小・中学校運営協議会会長は自治協議会の代表者ではありません。自治協議会の代表者が学校運営協議会の会長になるメリットに、学校と地域がスクラムを組みやすいということがあるのではないのでしょうか。

青垣地域は4つの小学校が統合し、青垣小学校になりました。旧小学校区にはそれぞれ自治協議会があり、学校と地域との関り方に違いがありました。

統合後の青垣小学校と地域との関り方については、一度練り直す必要があると思っている現状です。

委員

学校運営協議会会長は、地域の代表者でなければいけないとは思っていませんが、学校運営協議会のメンバーの中に自治協議会の役員がいらっしゃることは大事なことでと思います。



両方の会長を担うことで、動きづらくなることもあるかもしれません。自治協議会として受け入れられないこともあると思うので、南小学校では地域学校協働活動本部を自分たちで整備していくことに向かっています。

委員

本日のメンバー（社会教育委員）で市内で社会教育を展開するならばワークショップをする等、社会教育を推進していく気持ちが芽生えてきていますが、自分の地域（校区）で社会教育を推進しようとした場合、私が市の社会教育委員であっても、地域においては若輩者の立場ですので、なかなか難しいと思っています。

委員

統合により小学校区のエリアが広くなると、地域が一丸になることは難しくなるかもしれません。

自治協議会単位での活動と、自治会単位での活動では関わり方や参加の仕方も変わってくると思います。

学校運営委員会には定員があるのですが、社会教育委員も学校運営協議会委員として内側に入ることができる仕組みを検討してはどうでしょうか。

可能ならば内側から学校を見ることで、皆さんも学校に近づきやすくなるのではないかと思います。

委員

このワークシートは、学校との関りが多い方でないと記入するのが難しいかもしれません。

正解を書かなければならないということはないので、理想や、希望、皆様の思いを書いていただければと思います。

委員

11月25日（金）開催の「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム兼コミュニティ・スクール連絡会に参加されてから記入していただいても結構です。

提出期限は設けませんが、ご記入いただき、事務局へ提出していただきますようお願いいたします。

委員

地域学校協働活動について詳しく知りたい方がありましたら、南小学校では、「コミスクオフ会」を開催しています。

これは南小学校区以外の方も参加していただき、立場に関係なく話ができる場を提供しているもので、ご都合が良ければ、11月8日（火）19:30から南小学校で開催しますのでご参加ください。

5 その他 11:35～

(1) 社会教育関連会議について各委員からご報告

- ・今回は時間の都合上割愛し、次回の会議にてご報告いただきます。

(2) 令和4年度「地域とともにある学校づくり」推進フォーラム兼コミュニティ・スクール連絡会について

- ・別紙のとおり、社会教育委員の皆様もぜひご参加ください。

6 閉会 11:45